

## 「当たり前」の場所に戻る」ことの喜びと難しさ

新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本全国の学校が長期間の休校を余儀なくされました。報道機関の調査では、この長期間で、子供たちの意識に少しずつ変化があった事が分かってきました。最初は「学校が休みになってほっとした」「嬉しい」と感じた児童生徒達は日数が経過するうちに「勉強の遅れに対する不安」を感じたり「自分が目標にしていたものが失われてしまう」事への不安が大きくなったり、「友達に会いたい」「先生に会いたい」という気持ちも大きくなってきた事が明らかになっています。そして多くの児童生徒達が「当たり前」に存在したものが、実はそうではなかった」という事に気付かされたそうです。

2011年の東日本大震災の後も「当たり前」にあったものがそうではなかった」という事に気付かされた方々が大勢いたと思います。あの時は、多くの学校が卒業式を目前にして震災があり、家族を失ったり、家屋を失ったりしたまま、延期された卒業式に参列した生徒も多くいました。避難所で実施した卒業式で、当時の生徒代表が「天は容赦なく、私達の大切なものを奪っていきました。悔しくて、悔しくてたまりません。…」と涙ながらに話していた姿が報道され、私もやるせない気持ちになりました。そして多くの人々が、日常を失い、途方に暮れました。

あれから10年弱が経過しましたが、日本列島は、震災だけではなく、今回の感染症の拡大、豪雨災害等にもたびたび見舞われ、失うものがさらに大きくなっているような気がします。

それでも、私達は、日々の生活を充実させたり、どこかに楽しみや喜びを見いだしたり、様々な人々や価値あるものと関わりながら、豊かに生きていこうと励み、幸せに暮らそうと努力します。そして実際にコロナ禍であっても、災害が起きても、何度も立ち直り、暮らしを改善しようとしています。（しかし、実際は過去に起きた災害や疾病に苦しんでいる人々が数多くいますが…）

そのような中に、生徒達の中学校生活があります。長期の休校で「早く学校が始まらないかな」と思っていた生徒達も、今はひよっとしたら「勉強が辛い」「毎日同じ繰り返しでつまらない」「疲れる」「失われたものや目標にしていたものがなくなり、心の整理ができない」等々の気持ちのままの生徒もいるのではないかと思います。それでも少しずつ、自分の心に折り合いをつけながら前を向いて歩いているのかなとも思います。

学校生活が再開され、1ヶ月が過ぎました。休校中に水泳の池江選手の話題を「校長室から」で紹介しましたが、池江選手は次のように話していました。「当たり前」の事を当たり前でやれる。それが当たり前ではないのだと分かってきた。だから泳ぐ事は幸せなんだ。当たり前が幸せだったんだ。（病気で）泳げなくなって大切な何かが分かり始めました。」と話しつつ、「また泳ぐ事に慣れてしまうのかな。それが当たり前になるのかな。…でも、また当たり前」の場所に戻ります。」とつぶやきます。病気で失ったものの大きさと当たり前」の日々の大切さが交錯します。

失ったものや失った日々」の大きさに気付きつつも、また日常が回復すると「当たり前」が戻ってきて、意識され始めた大切な「当たり前」が、また普通の「当たり前」に戻ります。喜びに感じていた「当たり前」が月日の経過とともに、今度は苦しみや辛さに変わっていく場合もあります。人間の心は本当に難しいと思います。でもその難しさを克服していく過程が、実は「当たり前」の日々」なのかもしれないなど、つくづく思います。「当たり前」は喜びでもあり、難しいものでもありますね。